



第208号

発行所

一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会

〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 退任あいさつ
新任あいさつ
- ③ 令和3年度
京大関係病院長協議会定例総会
- ④ 支部だより「島根」
人事異動会員訃報

令和4年 新年のはじまりによせて

データ、患者レジストリデータ等の医療ビッグデータについてはよくご存じだと思います。それらに加え、近年ではスマートフォンアプリやウェアラブルデバイスから健康や予防に関わるデータが得られる時代になっ

れば、医療とヘルスケアとが一体化して、疾病予防、健康寿命の延長などに大きく寄与できることが期待されています。しかしながら、その実現には数多くの課題があります。まず、それらのデータの多くは医

が不足しており、その育成が喫緊の課題です。医学研究科の医学専攻、人間健康科学系専攻、社会健康医学系専攻の3専攻にはそれらの優れた研究者が数多くおられます。そこで2022年4月から、医学研究科内にそれらの優れた研究者を結集した3専攻横断型のセンターである医療DX（デジタルトランスフォーメーション）教育研究センターを設置いたします。同センターには文系データサイエンスの専門家にも加わって頂いて研究と人材育成を推進し、京都大学からデジタルヘルスを活かした新たな医療ヘルスケアを世界に向けて発信して参りたいと考えています。

そこで、医学・医療に不可欠であるが、必ずしも国家資格が必要ではない人材の育成を目指した総合医療科学コースを2017年に設けるなど、人間健康科学科の大幅な改組を致しました。そして、改組した学部学生が大学院に入学する年度になります今年度、2021年度に大学院人間健康科学系専攻を改組いたしました。修士課程は定員を49名から70名に、博士課

程は15名から25名に増員し、高度なレベルの看護、理学療法、作業療法を実践できる人材の育成および研究を推進しています。加えて、医療DX教育研究センターで育成する人材も本専攻で受け入れ、デジタルヘルスを推進する人材を育成していく予定です。さらに、高度なレベルの研究を推進するために、総合医療科学コースの学生の研究指導には医学専攻、ウイルス・再生医学科学研究所、iPS細胞研究所の教員にも参画していただ

いております。今後は人間健康科学系専攻内で医学・医療を取り巻く新たなサイエンスを推進する教員のリクルートを図るとともに京都大学の他部局との連携を深め、新たな時代のヘルスケア、医療をになう人材の育成、研究を推進し、京都大学から世界に発信して参りたいと考えております。

他分野の知を結集し 医学・医療の最前線から 新たな時代を切り拓く



医学研究科長・医学部長
岩井 一宏

では2022年も新たな気持ちで医学・医療の発展に尽力して参りたいと考えております。近年、医学・医療を取り巻く状況は大きく変化しており、京都大学ではそれらの変化に即応できる教育研究体制の構築を進めています。

本年はまず、医療におけるデータの活用に基づくデジタルヘルスの教育研究拠点の確立に尽力したいと思っております。芝蘭会員の皆様は電子カルテなどの診療データのみならず、健診

症以前の疾患発症後の転帰に至るまでの膨大なデータが含まれています。したがって、それらのデータを上手に活用できれば、疾患発症に至る要因、予防、治療法に対する応答性などを把握することができ、疾患予防、エビデンスに基づく治療法の選択なども可能となり、疾患の治療が中心である現在の医療のあり方を大きく変革できる可能性を秘めています。言い換え

療に適した正確性、信頼性が十分とは言えません。加えて、複数のデータベースの情報を統合して活用を促進するためには、解決すべき点が数多く残っています。

さらに、それらのデータを適切に利用しAIへ導入することも重要な課題です。これらのデータには究極の個人情報も含まれますので、倫理面、法制面からの十分な配慮も不可欠です。何よりも、このようなデジタルヘルスを推進できる優秀な人材

が、近年の科学・技術は爆発的な発展により、旧来のサイエンスの境界を越えた融合領域の研究の重要性がクローズアップされております。しかし、日本では緊縮国家財政もあり、国立大学法人は教員の定員削減を余儀なくされており、医学研究科も例外ではありません。

そのような状況下では異なる専攻、部局に所属する教員を統合して新たな研究組織を機動的に立ち上げることは有効な戦略であると考えております。多くの分野で優れた教員が在籍している京都大学のメリットを活かし、医学研究科の3専攻だけではなく、京都大学の他部局とも連携して、爆発的な発展を遂げている医学、ヘルスケア領域の教育研究を推進する本医療DX教育研究センターは、今後の京

ヘルスケア領域の発展と 急がれる担い手の育成

京都大学大学院医学研究科

基礎医学記念講堂・医学部資料館は、京都帝国大学の解剖学教室講堂として1902年に竣工された。がん免疫総合研究センター棟は資料館の東側に建設中。新旧の建物が入り混じる医学部構内は、医学の歴史をものがたっている

令和の時代になり京都大学大学院医学研究科はこれまでも増して、研究・教育環境を充実させ、構成員一同、京都大学大学院医学研究科・医学部の発展に尽力して参りますので、芝蘭会の先生方におかれましては、どうか従来にも増して暖かいご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

最前線の知見を世界へ
また、本庶佑特別教授がセンター長を務めておられる、がん免疫総合研究センター棟の建築も進捗して参りました。2023年度中には医学部構内の南東角、東山近衛交差点に面したエリアに、完成する予定でございます。がん免疫総合研究センターはがん免疫研究の世界の拠点として世界に向けて新たながん免疫療法に関する知見を発信して参ります。



基礎医学記念講堂・医学部資料館は、京都帝国大学の解剖学教室講堂として1902年に竣工された。がん免疫総合研究センター棟は資料館の東側に建設中。新旧の建物が入り混じる医学部構内は、医学の歴史をものがたっている

最前線の知見を世界へ
また、本庶佑特別教授がセンター長を務めておられる、がん免疫総合研究センター棟の建築も進捗して参りました。2023年度中には医学部構内の南東角、東山近衛交差点に面したエリアに、完成する予定でございます。がん免疫総合研究センターはがん免疫研究の世界の拠点として世界に向けて新たながん免疫療法に関する知見を発信して参ります。

令和の時代になり京都大学大学院医学研究科はこれまでも増して、研究・教育環境を充実させ、構成員一同、京都大学大学院医学研究科・医学部の発展に尽力して参りますので、芝蘭会の先生方におかれましては、どうか従来にも増して暖かいご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

退任あいさつ

麻酔科学との40年



社会福祉法人恩賜財団
大阪府済生会野江病院
院長補佐

福田和彦

私は1998年から侵襲反応制御医学講座・麻酔科学分野教授ならびに麻酔科長、集中治療部長を担当しておりましたが、2021年9月30日付で退官しましたので、芝蘭会会員の皆様に一言ご挨拶させていただきます。

私は1981年に京都大学

医学部を卒業し、森健次郎先生が主宰されていた麻酔学教室に入局しました。京都大学医学部附属病院における2年間の研修の後、神戸市立中央市民病院（現神戸市立医療センター中央市民病院）に1年弱の間勤務し、大学院に入学しました。大学院では、医化学第二講座

の沼正作先生のご指導を受けましたが、伝説にもなった沼先生の厳しい研究への取り組みを目的のあたりにしたことは一生の財産になりました。

学位取得後は沼先生が兼任されていた分子遺伝学講座の助手として約3年間を過ごし、1992年に麻酔科に復帰しました。沼研究室ではニコチン性ならびにムスカリン性アセチルコリン受容体に関する分子生物学的研究に従事していましたが、その経験を生かして、麻酔科復帰後は当時解明されていなかったオピオイド受容体のアミノ酸配列解明などに取り組み、麻酔科だけではなく広い臨床領域で重要な役割を果たしている麻薬の作用機構の解析などで一定の成果をあげることができました。

我が国の麻酔科学の歴史の中では1804年に華岡青洲が世界初の全身麻酔下手術を行った

とされていますが、現在に至る近代的な麻酔科診療は、第二次世界大戦後に米国から導入された手術麻酔から始まりました。今では、手術麻酔から領域を広げ、手術麻酔、集中治療、疼痛治療（ペインクリニック）が麻酔科診療の3本柱となっています。

このように診療の領域が大きくなってきたこととともに、医療安全などの観点から麻酔専門医が麻酔を担当することが推奨されるようになって、約20年前から麻酔科医不足が社会問題となりました。

京大病院ならびに京大関連病院においても、十分な麻酔科医数を確保することには苦労し続けてきました。大学病院でも派遣業者を介する外部からの麻酔科医紹介に頼らざるを得ない施設が多いとも聞きますが、京大病院でそのようなことがなかったのは教職員一同の努力によるもので、深く感謝しています。

京大病院では日帰り手術から臓器移植（生体、脳死）に至るまで様々な手術が行われており、緊急手術を含めて対応する当科の体制を構築することには困難

もありましたが、なんとか外科系診療の向上に貢献できたのではないかと自負しています。また、昨今の新型コロナウイルス感染症への対応でさらに注目されるようになった集中治療領域でも、京大病院の安心安全な医療に貢献できたと思っています。

2021年10月1日からは、大阪府済生会野江病院に勤務しております。今後も芝蘭会会員各位にはいろいろな面でお世話になることが多いと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任あいさつ

伝統と革新

次世代をリードする
泌尿器科をめざして

京都大学医学部附属病院
泌尿器科学 教授

小林 恭

2021年11月1日付で泌尿器科学教授を拝命いたしました小林 恭です。芝蘭会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は1998年に京都大学医学部を卒業し京都大学泌尿器科学に入局いたしました。同年

12月に私の前任の小川修名教授が着任され、以来20余年小川先生の薫陶を受けてまいりました。

神戸市立中央市民病院（現神戸市立医療センター中央市民病院）、京都大学医学部附属

病院、浜松労災病院（現浜松ろうさい病院）で泌尿器科臨床のトレーニングを積んだ後、2005年に大学院へと入学し、前立腺がんの去勢抵抗性獲得メカニズムの研究に没頭いたしました。

学位取得後に留学した米国コロンビア大学では主に膀胱がん（尿路上皮がん）の薬剤耐性メカニズムの研究に従事し、2012年に帰学いたしました。以後は尿路上皮がん・前立腺がんとともに、腎移植にも携わる機会をいただき、それぞれの臨床・研究に邁進してまいりました。

前立腺がん・尿路上皮がんの研究においては治療抵抗性メカニズムの解明とその克服を目指し、研究を積み重ねてまいりました。折しも2000年代は前立腺がんにおいて、2010年代は尿路上皮がんにおいて、



医学部構内から大文字を望む

それまで長きにわたり改善のなかった進行がんの治療成績が大きく向上するブレイクスルーが起る時代を目の当たりにする僥倖を得ました。今回、京大病院においてさらに研究を進めていく機会をいただきましたので、次なるブレイクスルーの担い手となり、少しでも医学の発展に寄与できるような研究をなしたいと考えております。

そのためには、時代の波にうまく乗って社会の求める成果を出すことも大切ですが、誰もやらないような独創性・革新性の

高いテーマをブレることなく継続することもまた重要です。また、多くの一流研究者が揃う環境を存分に活かし、皆様と協力して研究を進めていきたいと考えております。

私が泌尿器科医として歩んできた時代には泌尿器科の臨床も大きく様変わりしました。手術ひとつとっても開放手術から腹腔鏡手術、そしてロボット支援手術と、低侵襲術式が今では当たり前のように多くの病院で実施可能になっております。

その中で、大学病院に求めら

れる役割も少なからず変化してきており、新規低侵襲手術の開発・教育・普及とともに、大きな侵襲を伴う高難度手術へも対応しなければなりません。また薬物治療の進化も日進月歩の勢いであり、特に海外のガイドラインは年に数回書き換わることも珍しくなくなりました。そのような新規治療の推進と高難度医療体制の維持の両面から大学病院の使命を果たしていく所存です。

これまでの京都大学泌尿器科学は臨床面・研究面において時代をリードしてきたと自負しております。今後もその存在感を維持し、さらなる革新的成果を出していくためには、次世代のリーダーとなる人材の育成が必要不可欠であり、これが私自身に課せられた最大の使命であると自覚しております。

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。

ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。手続きについては芝蘭会事務局までお問い合わせください。

手続き等については、

芝蘭会事務局

TEL 075-751-2713 FAX 075-752-4015

訂正とお詫び

芝蘭会報第207号（前号）2頁の「支部だより」岐阜支部の記事に誤りがありました。会員ならびに関係者の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫びするとともに、次のとおり訂正いたします。

2頁「支部だより」岐阜支部
1段目 左から8行目、2段目 右から7行目、
2段目 右から14行目

誤：「富田先生」 → 正：「木村先生」

令和3年度 京大関係病院長協議会 定例総会を開催

京都大学医学部附属病院は、去る10月22日(金)に令和3年度京大関係病院長協議会定例総会をオンラインにて開催しました。本協議会は、同会員である関係病院長が親睦を深めるとともに、医学の進歩発達及び病院経営の合理化を企画することを目的として年一回、定例総会を開催しているものであり、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催を余儀なくされた中、学内外から160名余りが参加しました。

定例総会では、宮本享病院長、岩井一宏医学部長の開会挨拶に次いで、中本裕士教授(放射線診断科長)、永井洋士教授(臨床研究支援部長)、小濱和貴教授(消化管外科長)、寺田智祐教授(薬剤部長)、波多野悦朗教授(肝胆脾・移植外科長)、永井純正教授(医療開発部長)より新任者挨拶が行われました。

続いて、今年度のメインプログラムとして、パネルディスカッションが実施されました。初めに、伊藤和史総合臨床教育・研修センター特定教授より京都大学医学部附属病院の研修医獲得について説明があり、次いで、宮本病院長からの日本専門医機構をめぐる最近の動向に係る話題提供と、基本領域の診療科長からの現状紹介が行われました。

また、北野病院 吉村長久病院長より、パネリストとして「シーリングによる内科専攻医募集定員削減の影響と対策案」について話題提供頂き、それらをもとに、研修医と専攻医を取り巻くシーリング問題について議論がなされました。

後半は、高折晃史副病院長がコーディネーターを務め、パネリストとしてお迎えした公立豊

岡病院 三輪聡一病院長、兵庫県立尼崎総合医療センター 平家俊男院長に高橋良輔教授(脳神経内科長)を加えた三者からの話題提供を中心に、地域が必要とする総合診療能力について議論されました。

参加者も交えた活発な意見交換が行われるなど、非常に充実した定例総会となりました。



京都大学医学部附属病院

芝蘭会館〈別館〉は

テレワーク、WEB会議、WEB面接など、集中してお仕事できる静かな環境です。

デユース「テレワーク応援プラン」を開始いたしました

医学部北門を出てすぐの好立地。
職場でのお仕事の合間に
お気軽にご利用いただけます。
すべて個室ですので、ニーズに応じて、
使い方は自由自在！

仮眠したい……
シャワー浴びたい……
でもすぐ戻らなきゃ……

1人で集中したい……
「密」を避けたい……
オンライン会議があるのに
部屋がない……

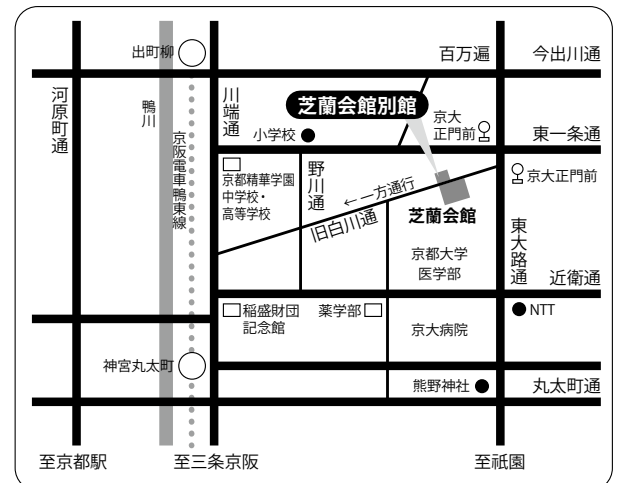
部屋が空いていれば、
直前のご予約でも OK



会館ロビー



洋室個室



テレワーク応援プラン ご利用料金 (1人あたり・税込)		
プラン	デユース 10 時間プラン	デユース 5 時間プラン
利用時間	10 時～ 20 時の最大 10 時間利用	10 時～ 20 時の間の連続最大 5 時間利用
一般利用者料金	【シングル】 2,500 円	【シングル】 2,000 円
芝蘭会員 (会費納入者) 料金	【シングル】 2,000 円	【シングル】 1,500 円

- チェックイン 10 時 / チェックアウト 20 時
- 広さ 13㎡
- 有線 LAN、WIFI 完備
- デスク、電気スタンド、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、電気ポット、浴衣、アメニティ 完備
- 1 階に自動販売機がございます

前日および当日のキャンセルの場合は、利用料金の半額を頂戴いたします。
これらのプランは、ご利用日の 1 週間前からの販売とさせていただきます。
ご予約の際には、おおよそのチェックイン時間をお知らせください。

芝蘭会館別館へのアクセス

- 京都駅から
 - D2 乗場 市バス 206 系統「祇園・北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車 徒歩 2 分
 - 地下鉄「国際会館」行「今出川」下車出口 3 番、市バス 201 系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 阪急京都河原町駅から
 - 出口 6 番 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行、31 系統「高野・国際会館・岩倉」行「京大正門前」下車徒歩 2 分
- 京阪出町柳駅から 徒歩 15 分

一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)

芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛ノ宮町 11-1

ご予約・お問い合わせ

芝蘭会館別館 (国際交流会館)
Tel. 075-771-0958
学内番号 16-9458
E-mail: info@shirankai.or.jp

ご注意

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報(住所、電話番号等)を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございません。

ので、くれぐれもご注意くださいようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会事務局 TEL ● 075-751-2713 FAX ● 075-752-4015



支部だより

島根

再生医療に見る 基礎から臨床への橋渡し

令和3年11月13日（土）、ニューウェルシティ出雲にて、令和3年度芝蘭会島根支部総会が開催されました。当番世話人である並河徹先生から開会の辞があり、支部長である森本紀彦先生から支部長挨拶があった後、京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授の大森孝一先生から医学研究科・医学部の現況が島根支部の先生方に伝えられました。

本部報告では京都大学医学部附属病院の運営体制、新任教授の紹介、各賞の受賞、「がん免疫総合研究センター」の建設の進捗、クリニカルアナトミープ（CAL）の設置と充実、特色人試制度などを含む教育改革への取り組み、メディカルインベーションセンター（MIC）棟、KICONNECT棟の完成、KMSIFUND、京大病院基金についての報告がありました。

その後、大森孝一先生による「喉頭・気管の再生医療」という題の学術講演がなされました。まず気道再建の現状と課題について、気道再建を要する患者数とその疾患についての説明がありました。希少疾患であるため、法令や指針に基づき、長期的に品質の保証されたデータ収集を可能にするレジストリ構築や、医療者・研究者で共有で

きる体制を確立する必要性があると述べられました。

気道再建の課題としては、自己組織移植では複数部位、複数回の手術侵襲、移植組織が不安定であること、人工材料による再建では生着不良や周術期合併症が多いことがあり、これらを解決するために組織工学が活用され始めたことでした。再生医療は組織工学と幹細胞生物学が重要な役割を果たしており、組織工学の登場と幹細胞生物学の進歩により、再生医療が手の届く医療になったそうです。

次に、気管の再生医療についてのお話がありました。組織工学の観点から人工気管が満たす条件として、気道としての支持力に加えて頸部の屈曲に対応できる柔軟性も合わせ持つ枠組みと、組織再生の足場となりやすい多孔質が必要であり、生体内組織再生誘導型の人工気管は、支持力と柔軟性を持つ枠組みとしてのポリプロピレン製のメッシュとリングと、組織再生の足場となる多孔質のコラーゲンスポンジから成っているそうです。

イヌを用いた気管再生実験では、人工気管の有効性と安全性が確認され、最長5年の観察で全例狭窄なしという結果が出ており、輪状軟骨弓部の再建でも最長4年の観察で全例狭窄なしという結果が出たとのことでした。

このような結果を受けて基礎研究から臨床研究へと橋渡しされ、世界初の臨床応用として甲状腺乳頭がん気管浸潤例に対する気管再建が行われた結果、上皮化に2か月かかるという課題が明らかになったそうです。現在人工気管の実用化に向けた医師主導治験は終了しており、薬機承認が待たれています。

次に、次世代の気管再生に向けての探索的研究についてのお話になりました。現在の人工気管には、ポリプロピレンが非吸

収性材料であり小児に適応がないという課題と上皮化に2か月かかるという課題があり、軟骨の再生と上皮化の促進の必要性があります。

軟骨の再生への戦略には、臨床応用に近い自家軟骨細胞を用いる方法と、将来の医療に期待できるiPSC由来軟骨細胞を用いる方法があり、上皮化促進への戦略には、線維芽細胞か脂肪幹細胞を用いる方法と、iPSC由来気管上皮細胞を用いる方法があるそうです。

最後に、内腔の軟組織の形態が複雑で再現が難しい声帯隆起を、3Dプリンターを用いたオーダーメイド足場によって再建する治療法が示されましたが、まだ安定はしていない方法であるとのことでした。

このような再生医療の実用化

には治験、薬機承認、保険収載が必要であり、学術、規制、産業の3つの視点が揃うことが重要ですが、様々な組織と協力して、学術成果から新しい医療を創出し社会に還元していきたいというお話で締めくくられました。

こうして総会が終了した後、誠に残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大予防のため懇親会は開催されませんでした。写真撮影をして解散となりました。まだ医学の勉強を始めて間もない私ですが、学術講演はとても勉強になりました。

それでは、このような素晴らしい会にお招きいただいたことに最大限の感謝の意をもって島根支部総会の報告を終わらせていただきます。

（文責・3回生三宅大河）



人事異動

R3.11.1	竹村 幸敏	採用	京ダイアグノスティクス株式会社研究開発部主任研究員 ➡がん個別化医療開発講座（産学共同）特定准教授
R3.11.1	茶本 健司	採用	がん免疫総合研究センター 免疫ゲノム医学講座（産学共同）特定准教授 ➡がん免疫光線力学的療法（ICI-PDT）研究講座（産学共同）特定准教授
R3.11.1	谷口 智憲	採用	がん免疫総合研究センター 免疫ゲノム医学講座（産学共同）特定講師 ➡がん免疫光線力学的療法（ICI-PDT）研究講座（産学共同）特定講師

R3.11.1	小林 恭	昇任	泌尿器科学准教授 ➡ 同教授
R3.12.1	小川 雄右	採用	医療法人明和会 琵琶湖病院医師 ➡ 医療疫学准教授
R3.12.1	田浦 大輔	採用	代謝制御学講座（寄附）特定准教授 ➡ 糖尿病・内分泌・栄養内科学講師

会員計報

謹んでご冥福をお祈りいたします						日付はご逝去日	
花田 十衛	昭和 21 年卒	令和 3 年 4 月 25 日	木村 敏	昭和 30 年卒	令和 3 年 8 月 18 日	山崎 英博	教室会員 外科 令和 3 年 11 月 10 日
原田 宏	昭和 24 年卒	令和 3 年 9 月 8 日	半田 譲二	昭和 32 年卒	令和 3 年 12 月 8 日	渡邊 喜一郎	教室会員 外科 令和 3 年 11 月 17 日
今林 誠次	昭和 25 年専卒	令和 3 年 7 月 21 日	金 泰希	昭和 36 年卒	令和 3 年 8 月 15 日	富永 敏朗	教室会員 産科婦人科 令和 3 年 3 月 15 日
鳥居 昭三	昭和 25 年専卒	令和 3 年 10 月 25 日	亀田 寛	昭和 37 年院卒	令和 3 年 9 月 22 日	簗和田 武次	教室会員 産科婦人科 令和 3 年 6 月 21 日
石藤 守正	昭和 26 年卒	令和 3 年 4 月 20 日	田中 慧	昭和 41 年卒	令和 3 年 8 月 8 日	光野 一郎	教室会員 整形外科 令和 3 年 12 月 22 日
鯉江 久昭	昭和 28 年卒	令和 3 年 7 月 3 日	安達 秀樹	昭和 45 年卒	令和 3 年 12 月 17 日	雨森 正高	教室会員 内科2 令和 4 年 1 月 5 日
佃 光雄	昭和 28 年卒	令和 3 年 1 月 10 日	黄 俊清	昭和 52 年卒	令和 3 年 6 月 15 日	橋本 文暎	教室会員 病理学 令和 3 年 3 月 7 日
浅利 一郎	昭和 28 年業卒	令和 3 年 8 月 4 日	西田 茂樹	昭和 54 年卒	令和元年 9 月 17 日	浅輪 喜行	教室会員 麻酔科 令和 3 年 5 月 22 日
田中 陸男	昭和 29 年卒	令和 3 年 12 月 12 日	田中 立歩	昭和 59 年卒	平成 29 年 10 月 7 日		
蛭多 量令	昭和 30 年卒	令和 3 年 8 月 12 日	元村 武夫	教室会員 眼科	令和 3 年 7 月 17 日		

事務局から

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては、会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますので、ご了承ください。

FAX 075-752-4015

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場であり、支店活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、送付先は FAX (075-752-4015) または E-mail (info@shinkai.or.jp) でお願ひ致します。また、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会が決めさせていただきます。

芝蘭会報編集委員会

芝蘭会報編集委員会

委員長 高折晃史

委員 中村保幸、吉岡秀幸、

清川岳彦、園部誠、松村由美、

甲斐亜沙子、諫田淳也

芝蘭会雑誌部

顧問 高折晃史

部員

（6回生）谷本将崇、小野譲騎、

西垣利彦

（5回生）岡和来、西村健太、

秋宗俊久、原明弘、森田瑛、

吉村太貴、樺井良太郎、濱田草太、

（4回生）奥野芳樹、青木ちひろ、

福井真孝、楠本修司

（3回生）三宅大河、小林空暉、

小澤同陽、野洲春菜

（2回生）大島輝

芝蘭会事務局

事務局長 山田均

総務課長 秋山和美

管理課長 森勝二

制作協力 京都通信社

デザイン 納富進